

新年のごあいさつ



国土交通副大臣
衆議院議員
渡辺 具能

新年明けましておめでとうございます。日本作業船協会の皆様におかれましては、新しい年を心新たにお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、旧年中皆様から頂いたご厚情に対し、心より御礼申し上げます。

昨年は、5年半続いた小泉内閣に代わって安倍新内閣の「美しい国」創りがスタートし、政治の大きな節目の年となりました。

私にとりましても昨年は、安倍総理より国土交通副大臣の重責を拝命し、また衆議院議員在職10周年を迎えさせて頂く等、政治家としての大きな節目となりました。このように充実した政治活動をさせて頂けましたのも、この10年の間、皆様より戴きましたご指導ご支援のお陰でありまして、改めて心より感謝申し上げます次第であります。本当にありがとうございました。皆様方のご期待に報いるためにも、初当選させて頂いた10年前の初志を忘れることなく、職責を全うして参る所存ですので、引き続きご支援賜りますようお願い申し上げます。

さて、国土交通副大臣として担当させて頂いております社会資本整備につきましては、昨年まで続いた小泉改革の過程で、1998年の水準の約半分となる7.2兆円まで削減され、当初歳出削減の目標とされた水準を既に達成しております。予算の効率化は当然ですが、未来への投資としての社会資本整備の必要性や重要性を強く訴えるとともに、また引き続きダンピング対策などにも取り組んで参る所存で

あります。

また、安倍総理は所信表明演説の中で「ヒト・モノ・カネ・文化・情報の流れにおいて、日本がアジアと世界の架け橋となるべく、使い勝手も含めた日本の国際空港などの機能強化を早急に進める」という『アジア・ゲートウェイ構想』の推進を提言されました。今後具体的な方針や政策手法などがとりまとめられる予定であります。言うまでもなくアジアとの窓口として、港の果たすべき役割は非常に大きなものであり、港湾が『アジア・ゲートウェイ構想』の中核と位置づけられるようより一層努力して参りたいと存じます。

さらに、総理は「地域の活力なくして国の活力はない」とも申されましたとおり、知恵と工夫にあふれた「魅力ある地方」の実現を訴えられました。平成14年2月から始まった現在の景気拡大は、「いざなぎ景気」を超える戦後最長の好景気であるとのことです。地方における景気回復についての実感は未だ乏しいのが実情であると思われ。国土交通省といたしましては、港湾・道路などの社会基盤整備を通じ、地域経済の活性化や雇用環境の改善に取り組んで参る所存であります。こうした諸政策を政府の一員として関係する皆様の協力を得ながら推進し、本年が真に景気回復を実感できる年となるよう努力して参りますので、今後とも変わらぬご指導の程、何卒宜しくお願い致します。